

第6章 救急編

1. 活動状況

本消防組合は昭和36年4月25日から救急自動車1台で救急業務の運用を開始しました。平成3年には救急救命士法の施行と救急隊員の行う応急処置範囲の拡大がなされたことにより、救急業務は大きな飛躍と変革を遂げました。

これらに対応するため、本消防組合では3本署15出張所に17台の高規格救急自動車と159人（内救急救命士93人）の救急隊員（兼務隊員含む）を配置し、あわせて、救急救命士の養成も計画的に推進しており、全ての車両で救急救命士活動を行っています。

救急体制

区分 \ 署別	総数	枚方署	枚方東署	寝屋川署
救急隊数	17(1)※1	4	6(1)※1	7
隊員数	159(15)※1	36	60(15)※1	63
救急車数	23(6)※2	6(2)※2	8(2)※2	9(2)※2

※1の（ ）内の数字は兼務隊又は兼務係員 ※2の（ ）内の数字は非常用車両

・救急件数の動向

昭和36年4月に開始した救急活動は当初年500件弱でしたが、平成30年12月31日現在、救急出動件数は37,751件で、内訳は枚方市が22,513件、寝屋川市が15,100件、管轄外（第二京阪道路や交野市へのドクターカー出動）が138件でした。

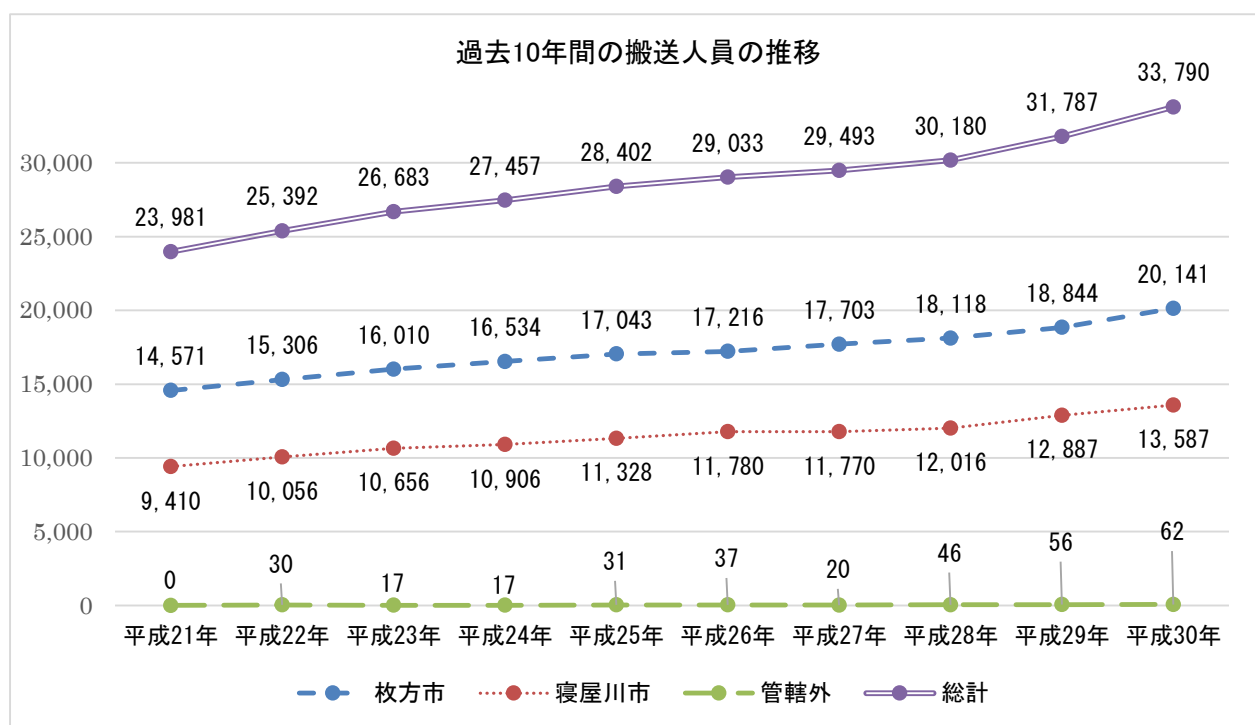
次に示すとおり、過去10年間の出動件数及び搬送人員は、平成21年から右肩上がりに増加しています。平成30年は前年比6.7%の増加で、昨年までの増加率の平均3.6%を大きく上回っています。

人口に対する搬送者の比率は、昭和43年は100人に1人でしたが、平成30年は18人に1人が救急車を利用したことになり、救急需要が高まっています。

過去10年間の出動件数の推移

（年は和暦）

	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
総計	26,499	28,226	29,345	30,357	31,364	32,422	32,863	33,577	35,356	37,751
枚方市	15,982	16,880	17,492	18,080	18,688	19,193	19,669	20,159	21,105	22,513
寝屋川市	10,514	11,316	11,833	12,257	12,643	13,191	13,161	13,362	14,140	15,100
管轄外	3	30	20	20	33	38	33	56	111	138



2. 救急活動の概況

・ 昨年との比較、特筆すべき事案等

平成 30 年中の救急活動状況をみると、大阪北部地震や猛暑による熱中症の増加等の要因があり、昨年比で出動件数は 2,395 件、搬送人員は 2,003 人増加しています。

区分	平成 29 年	平成 30 年	
1 か月 平均	2,946.6 件	3,145.9 件	
1 日 平均	96.9 件	103.4 件	
1 日あたり最多出動	144 件	170 件	※1
1 時間あたり平均	4.0 件	4.3 件	
1 時間あたり最多出動	22 件	23 件	※2
熱中症(疑い含む) 搬送人員(4月～10月)	245 人	503 人	

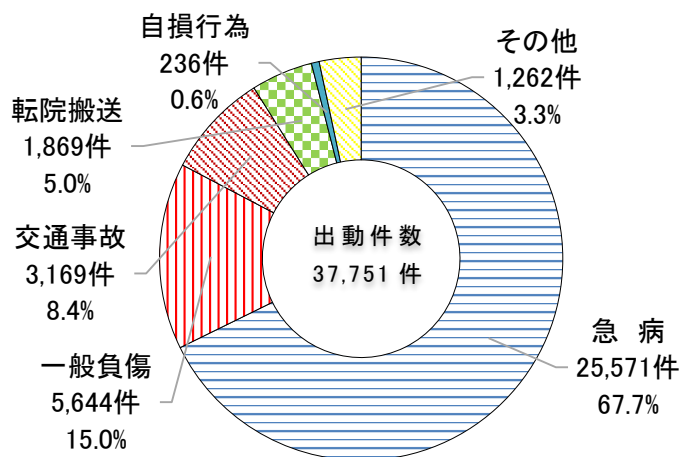
※1 平成 30 年 7 月 18 日 中学校における熱中症多数事案が発生

※2 平成 30 年 6 月 18 日 8 時～9 時 大阪府北部地震

・ 事故種別活動状況

救急出動件数を事故種別ごとにみると、第1位が急病、第2位が一般負傷、第3位が交通事故、以下、転院搬送、自損行為の順となっています。

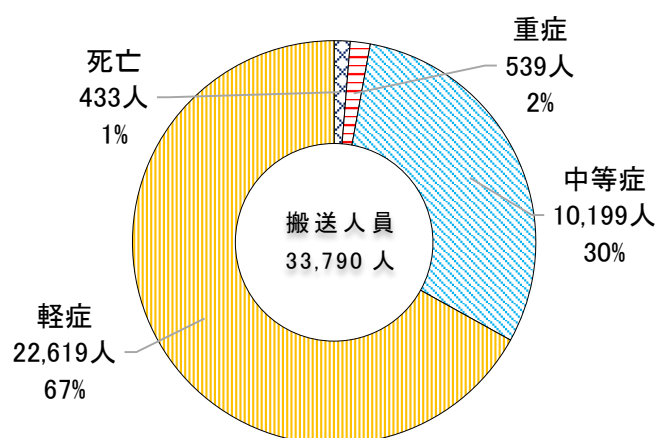
また、搬送人員にあっても出動と同順位となっています。



・ 症度別搬送人員状況

搬送人員を症度別ごとにみると、軽症と中等症で全体の97%に達しています。

また、搬送した傷病者には、心肺停止状態であると考えられる傷病者602人（1.8%）が含まれています。



・ 年齢区分別搬送人員状況

搬送人員を年齢区分別ごとにみると、高齢者が多く、全体の58%を占めています。

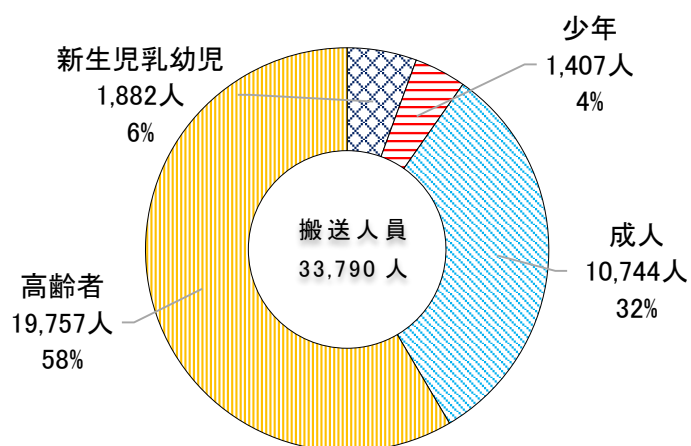
※年齢区分の定義（総務省消防庁）

新生児・乳幼児：満7歳未満

少年：満7歳以上満18歳未満

成人：満18歳以上満65歳未満

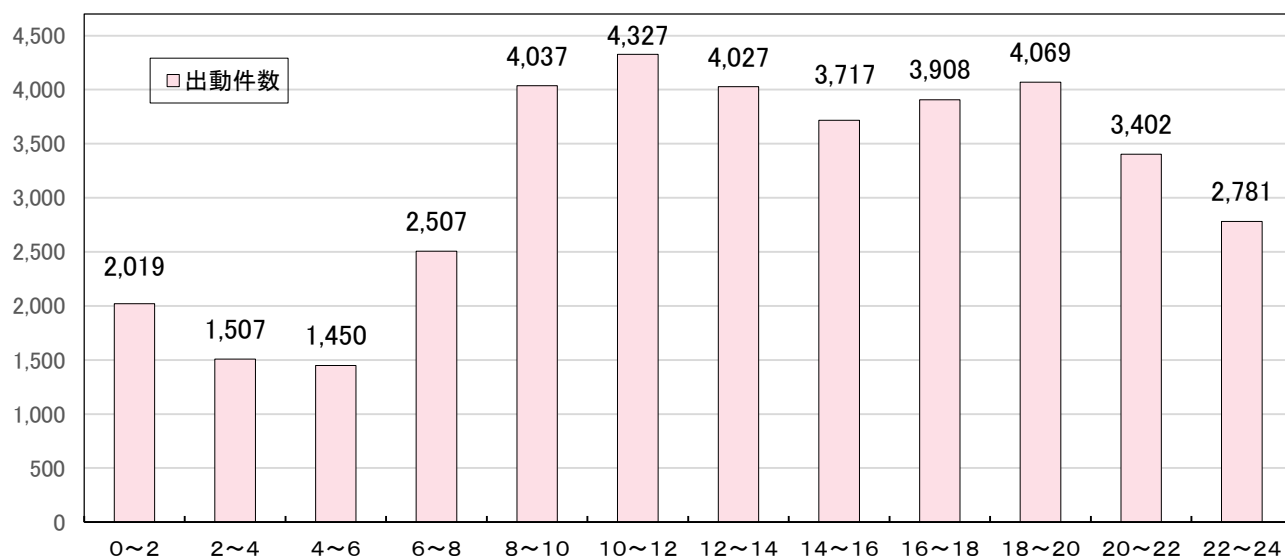
高齢者：満65歳以上



・ 時間帯別救急出動状況

時間帯別救急出動及び搬送状況では、下表のとおり10時から12時までが多く、4時から6時までが一番少なくなっています。

事故種別と時間帯との関連では、交通事故は17時から18時まで、急病は9時から10時までに多い傾向があります。

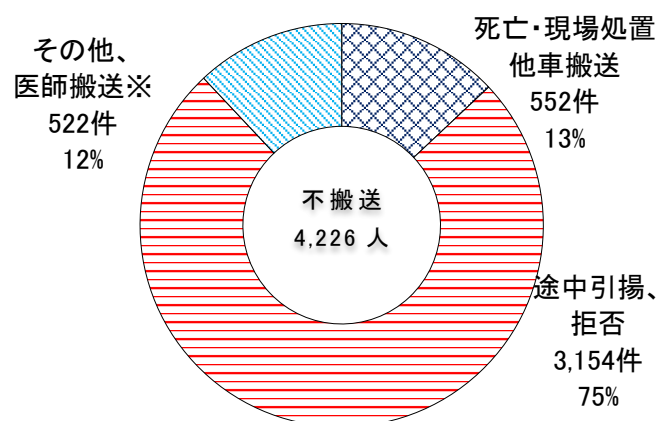


・ 不搬送の状況

救急出動要請があり、出動した事案の内、医療機関に搬送しなかったものを不搬送としています。

不搬送には、救急隊等が到着後、現場処置して救急車で医療機関への搬送を拒否される場合や、残念ながら死亡が確認できる状態の場合等、結果として不搬送になってしまうことがあります。

しかしながら、緊急性の無いもの、誤報、悪戯、酩酊等の理由で、出動途上や現場到着後に救急車で搬送を拒否されたものが不搬送理由の75%を占めています。



※ドクターカーとして医師を傷病者のもとへ搬送すること

・発生場所別搬送医療機関

発生場所と搬送医療機関の関係について、搬送医療機関の選定は距離だけでなく傷病程度や処置内容によるため、一概に直近の医療機関を選定するものではありませんが、管内(枚方市、寝屋川市)や管内から近い場所へ搬送できたかを示す参考値となります。

発 生 場 所	管外出動含む消防組合合計			枚方市		寝屋川市	
収容医療機関	計	管内	管外	市内	市外	市内	市外
搬 送 人 員	33,790	27,628	6,162	16,317	3,823	8,061	5,526
割 合		81.8%	18.2%	81.0%	19.0%	59.3%	40.7%

3. 応急手当の状況と普及啓発活動

・一般市民実施の応急手当及び救命手当

傷病者の救命効果を向上させるためには、救急車が到着するまでの間に一般市民による応急手当や救命手当が行われることが重要です。

市別	処置別	計	胸骨圧迫 心肺蘇生	止血	保温	除 細 動 (A E D)	そ の 他 ※
総 計		249	145	28	28	5	43
枚 方 市		149	94	18	7	3	27
寝 屋 川 市		100	51	10	21	2	16

※その他は、被覆、固定、人工呼吸等

・応急手当の普及啓発活動状況

普及啓発用資器材の状況は、蘇生訓練用人形の成人用、小児用、乳児用及びAEDトレーナーを常備しており、応急手当の普及に寄与しています。

署別実施状況

署別	区分	実施回数	対象人数
総 数		247 回	10,012 人
枚方署 (消防本部含)		129 回	7,003 人
枚方東署		53 回	1,292 人
寝屋川署		65 回	1,717 人

普及員実施分※

署別	区分	実施回数	対象人数
総 数		255 回	6,990 人
枚方署 (消防本部含)		111 回	3,217 人
枚方東署		46 回	1,319 人
寝屋川署		98 回	2,454 人

※普及員実施分とは「応急手当普及員講習会」を受講され、応急手当普及員として認定された市民が、救命講習会を実施した回数と受講人数のこと

・救命講習会

本消防組合では普通救命、上級救命、応急手当普及員、また、心停止になった方が成人の場合特に重要である胸骨圧迫とAEDに特化した「救命入門コース」の各講習会を開催しています。これらの講習会を通じて倒れている人を見かけたら、勇気を持って駆け寄り、心肺蘇生を実施するような地域になる事を目指しています。併せて、心停止の予防も市民に知ってもらい、心停止になる人が少ない社会を目指すことも重要であると考えています。

・PUSH～いのちの授業

平成26年4月より枚方市・寝屋川市の小学校・中学校を対象に授業の一環として”PUSH～いのちの授業”を行っています。自分の命や他人の命を大切にする心を育み、倒れている人がいれば勇気を持って一歩踏み出すことのできる児童を育て、安全・安心な町づくりに繋げています。

講習種別

	平成30年中の実施回数及び受講者数	
PUSH～いのちの授業	66回	5,871人
普通救命講習会	52回	1,185人
救命入門コース	74回	1,990人
普及員講習会	5回	102人
普及員再講習会	6回	119人
上級救命講習会	2回	56人
応急手当指導員講習会	16回	43人

PUSH～いのちの授業
の修了証として配布する缶バッチ



・救命講習会における啓発活動

講習会の場でよく「餅が詰まる事って実際にあるのですか?」「家で気を付けることは?」といった質問があり、講習会の場では身近な事故の件数等をお知らせして、関心を高めてもらうようにしています。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
餅を詰まらせた 出動件数	6	1	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1
浴室内心肺停止 傷病者数※	21	11	5	1	5	3	5	3	3	5	6	3

※急激な温度変化により血圧が上下することで、心臓などの血管に大きな負担がかかり心筋梗塞・脳梗塞・脳出血を引き起こしやすくなります、ヒートショック現象といい、冬の浴室で起こりやすい事案です。

・ 勇気こころのカード

救急現場において、救急通報してから救急車が到着するまでの間、バイスタンダー（居合わせた人）による心肺蘇生や応急手当等が大変重要になります。

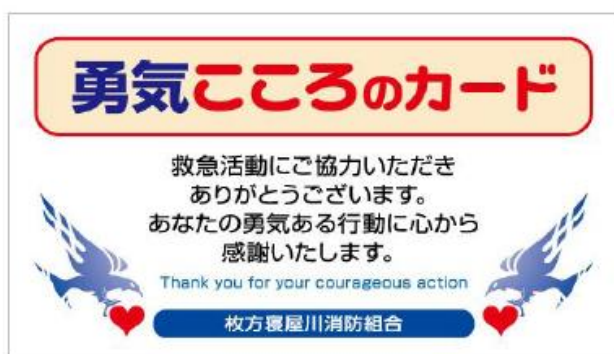
しかしながら、一刻を争う救急事案において勇気ある行動に感謝を伝える猶予もなく救急隊が現場を離れたり、また、勇気ある行動を行ったことによるバイスタンダーの精神的負担（ストレス）が非常に大きいと思われます。

そこで、本消防組合では、平成29年1月16日から救急活動に協力していただいたバイスタンダーに対して感謝の気持ちを込めて「勇気こころのカード」を配布しています。

配布対象者は次のとおりです。

- (1) 救急現場にて心肺蘇生を実施した協力者
- (2) 救急現場にて応急手当を実施した協力者
- (3) 現場指揮者（救急隊長等）が必要と認めた協力者

名刺サイズ（表面）



（裏面）



4. 「救急安心センターおおさか」

・「救急安心センターおおさか」への参画と主な業務

本消防組合では、大阪市の事業として平成21年10月から運用されている「救急安心センターおおさか」に平成22年4月から府下13消防本部とともに参画し、平成23年4からは府下全消防本部が参画しています。

近年、救急の需要が著しく増える中、新たな取り組みとして注目されています。

24時間、365日体制で医療機関案内及び救急医療相談窓口として看護師、医師により相談対応し、必要時には救急車を出動させるなどのサービスを提供しています。

- (1) 病気やけがの状態から緊急性について助言します。
- (2) 病気やけがの状態から応急処置について助言します。
- (3) 症状に応じた適切な医療機関を案内します。
- (4) 救急医療相談から救急車の出場まで1本の電話で対応します。

・問合せ内容及び各件数

平成30年に枚方市内からの問合せは7,515件、寝屋川市内からの問合せは5,367件ありました。このうち、救急安心センターおおさかを通しての救急要請は枚方市で123件、寝屋川市で92件でした。

		枚方市	寝屋川市
救急車の必要があったもの		123	92
医療相談		3,640	2,499
応急手当指導		-	-
医療機関問合せ	病院問合せ（必要科目が明確なもの）	3,400	2,533
	病院問合せ（必要科目が不明確なもの）	95	70
	#8000（小児救急相談）	4	1
	中毒110番（洗剤、医薬品の誤飲等）	35	26
	心の救急相談（精神科医療等）	27	19
	小計	3,561	2,649
苦情		-	-
誤接		-	-
いたずら		-	-
その他		191	127
合計		7,515	5,367



5. ドクターカー事業

高齢化が進む中、救急件数は増加傾向にあり、救急搬送で病院到着までに時間がかかる現状で、今後も救急出動件数は更に増加することが予想されます。こうしたことを背景に、救急医療体制を一層充実させ、救命処置等を必要とする傷病者が発生した救急現場に一刻も早く医師が出場して医療行為を行うことにより、地域住民の救命率及び社会復帰率の向上並びに処置後の良好な改善を図ることを目的として、関西医科大学附属病院高度救命救急センターと連携し、平成29年4月からドクターカーを運用しています。

ドクターカー出動件数

	平成29年※	平成30年
総計	271	376
枚方市	168	203
寝屋川市	74	137
交野市	28	35
管轄外（第二京阪道路等）	1	1

ドクターカーとなる救急車には
マグネットのステッカーを貼付



※平成29年は4月3日運用開始からの件数

・ドクターカー運用イメージ

ドクターカーを必要と判断した事案には、傷病者のいる場所に直近の救急車と、医師が同乗しているドクターカーが関西医科大学附属病院高度救命救急センターから出動します。

目撃のある心肺停止（疑い含む）事案では、消防小隊も出動します。（P A連携といいます）

ドクターカー

